

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ハウオリ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日		～ 令和7年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日		～ 令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025/3/14		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育園の中にある事業所と言う環境を生かし、インクルーシブの推進を行っている。保育園の担任と常に情報を共有しながら、支援方針を決めている。	保育園での活動に楽しんで参加出来るように、保育園のクラスにハウオリの保育者が同行している。	他の保育園や幼稚園とも密に連携が取れる様、情報交換を行っている。
2	保育での基礎知識を基盤とし、さらに専門性を高める為に、研修や会議に参加している。	保育者全員が年間を通して様々な研修に参加し、知識を持った上で支援にあたっている。またケース会議を毎月行い、一人ひとりの発達状況や支援方法を再確認し、統一された支援を行う。	さらに日々の支援から問題や課題を抽出し、解決策を考え実行する事で支援力の向上を目指す。
3	保育園の行事と一緒に参加したり、保育園と同じ給食を提供する事ができる。	参観日など、ハウオリ独自の行事もあるが、保育園の行事と一緒に参加し、様々な経験が出来るようにしている。	保護者同士のコミュニティを広げられる様に、保護者参加型の行事を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	加配職員も配置はできているが、より細やかな支援が必要なのではないかと感じる。	利用人数が増えており、支援が必要な場面がそれぞれに異なる為。	人員を手厚く配置し、同行できる場面を増やしていく。また、保育者一人ひとりの支援力や判断力の向上に務める。
2	保護者同士が集まる機会が少なく、話をする機会も少ない。	就労している保護者の方が多く、送迎時間や場所も個々に違う為、会う機会が少ない。	保護者参加型の行事を行い、知り合える機会を多く設ける。
3	部屋数が少なく、個室が設けられない。	保育園のランチルームを改装している為。	現在もパーティションを利用したり、廊下を利用したりして過ごしている。今後も工夫をし、必要なスペースを設けて行く。